

ジェンダー研究 センターの組織と活動

ジェンダー研究センター長 教授

波平 恵美子

ジェンダー研究センターは、国立大学では唯一の、ジェンダー（社会的・文化的に規定されている男女差や性別分業や男らしさ、女らしさについての認識等）研究を目的とし、平成八年に設置されました。しかし、その歴史は古く、昭和四二年に設置された大学資料室がその出発です。その後昭和五〇年に女性文化資料館となり、平成八年には現在の名称と組織となりました。

当初はお茶の水女子大学の前身であった東京女子師範学校（後に東京女子高等師範学校）以来の女子教育の資料を収集することが目的でしたが、やがて、女性に関する資料を収集し研究の拠点となっていきました。

現在、センター長一名（併任）、センター専任教授二名に加え、国外客員教員（年間一名枠）、国内客員教員、研究機関研究員（年間二名ないし三名枠）、研究支援推進員（年間一名枠）が研究活動を行っています。なお、センターの事務や国外客員教員の対応、国内外の他の研究機関との連絡など多様な業務を、三名の補佐員が処理しています。



お茶の水女子大学ジェンダー研究センター主催公開シンポジウム
「国際協力における大学の役割」

研究活動は、「女性と環境・開発・人口に関する研究」など十近いプロジェクトを持ち、右の研究者に加え大学内および大学外の研究協力員がメンバーとなって調査、研究、発表を行っています。平成八年以来、海外から著名なジェンダー研究者を客員教員として、一年に二名ないし三名を迎え、現在まで十五名になりました。一名の教員が滞在中に五回の夜間セミナーと一回の公開シンポジウムで講演を行い、大学外からも多数の参加者が集まります。こうした研究活動は、センターの機関誌である「ジェンダー研究」をはじめ、数多くの出版物と



前列左から 伊藤教授、ヴェラ・マッキー客員教授、波平センター長、館教授

して公開されてきました。

センターのいまひとつの活動は教育・研修であり、専任教員は大学院生の教育と共に、センターでの研修を望む若い研究者の教育と研究支援を行い、その結果次々とジェンダー研究者として巣立っています。

これまでに積み上げてきた国内外での当センターに高い評価を励みとして、一層の国際化と内容の充実を計りたいと考えています。

ジェンダー研究センターに関する問い合わせ先

(URL) <http://www.igs.ocha.ac.jp/>